災害が発生したら

まず、自身の安全を確保してください。次に、ペットがパニックで逃げ出さないよう気をつけながら安全を確保しましょう。最後に避難経路確保し、状況に応じて避難の判断を行います。

≪ 避難先は、体育館などの避難所だけではありません ≫

自宅の被災状況などから、自分たちに合う避難生活を選びましょう。

自宅

危険や被害が少ないときは、自宅に留まるという選択があります。
※ 余震が続くなど、二次災害の危険性が考えられる場合は迷わず避難所へ！

避難所

ほとんどの場合、飼い主とペットは生活するスペースが分かれます。避難所でのルールを守り、飼い主が責任をもってペットのお世話をしましょう。

車の中、屋外テント

避難所の駐車場など安全な場所でペット一緒に過ごすことができます。しかし、この場合自治体が避難生活を把握しにくいため、避難所で受付を済ませ、熱中症やエコノミークラス症候群に気を付けて過ごしましょう。

親戚・知人に預ける

危険を予想できるときは、事前に危険の少ない親戚・知人やペットホテルなどにペットを預けられるよう、前もって相談したり、施設を探したりしておくことが必要です。

予定避難先

①地震の時：＿＿＿＿＿＿＿＿

②風水害の時：＿＿＿＿＿＿＿＿

③その他：＿＿＿＿＿＿＿＿

村山市
ペット防災手帳®

飼い主とペットが一緒に写っている写真を貼りましょう。
飼い主であることを証明するときに役に立ちます。

（家族の情報）

連絡先①　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号：＿＿＿＿＿＿　携帯：＿＿＿＿＿＿

メールアドレス：＿＿＿＿＿＿＿＿

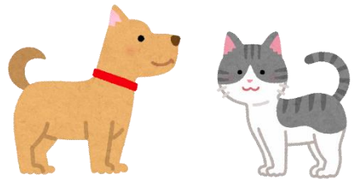
連絡先②　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号：＿＿＿＿＿＿　携帯：＿＿＿＿＿＿

メールアドレス：＿＿＿＿＿＿＿＿

ペットの情報

ペットの外見や特徴が分かる写真を貼りましょう。
身体の色や大きさ、しっぽの長さなど全身の特徴が分かる写真は、 迷子になった時に探す手がかりになります。



ペットの名前：＿＿＿＿＿＿＿＿

ペットの種類：犬 ・ 猫 ・その他（　　）

ペットの品種：＿＿＿＿＿＿＿＿

性別：オス・メス　　避妊・去勢手術：未・済

毛色：＿＿＿＿＿＿　体重：＿＿＿＿kg

マイクロチップ番号：＿＿＿＿＿＿＿＿

登録番号（犬）：＿＿＿＿＿＿＿＿

ペットの情報

アレルギー：有（　　）・無

既往歴：＿＿＿＿＿＿＿＿

治療中の病気：＿＿＿＿＿＿＿＿

必要な薬/投与方法：＿＿＿＿＿＿＿＿

ワクチン接種歴

＿＿年＿＿月　＿＿年＿＿月

＿＿年＿＿月　＿＿年＿＿月

狂犬病予防接種歴（犬の場合）

＿＿年＿＿月　＿＿年＿＿月

＿＿年＿＿月　＿＿年＿＿月

かかりつけの動物病院

病院名：＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿

一時預かり先等の情報

連絡先①　名前：＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿

メールアドレス：＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先②　名前：＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿

メールアドレス：＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先③　名前：＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿

メールアドレス：＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先④　名前：＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿

メールアドレス：＿＿＿＿＿＿＿＿

日頃の備え

住まいの安全確認

発災時、ムもくりトもけがをしないよう、家の中に危険な箇所がないか確認し、防災対策をしましょう。

しつけと健康管理

日頃からしつけや健康管理ができていると、避難生活でのストレスを軽減したり、トラブルを防いだりすることができます。

<しつけ>
□ケージにスムーズに慣れている
□決められた場所で排泄ができる
□ほかの人や動物を怖がらない
□基本的な指示をきくことができる、飼いまがえをコントロールできる(犬の場合)
□不必要に吠えない(犬の場合)
□室内飼育をする(猫の場合)

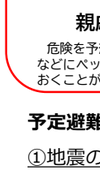
<健康管理>
□不妊・去勢手術をしている
□ワクチン接種と寄生虫の予防、駆除をしている
□犬の場合、狂犬病予防接種をしている

村山市ペット防災手帳®

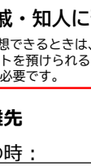
災害が発生したら

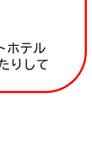
避難用品

人に避難用品が必要なように、ペットにも避難用品が必要です。一緒に準備をして、避難時にすぐ持ち出せる場所に置きましょう。



優先順位１
□療法食、薬
□キャリーバッグ、ケージ
□ペットフード、水(最低5日分)
□食器
□連絡先を描いた名札付き首輪、リード
□ペットシーツ、トイレ用品

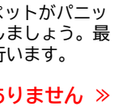




優先順位２
□ワクチン接種状況、既往症、投薬中の薬、かかりつけ医等の情報
□飼い主の連絡先とペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預け先など

優先順位３
□タオル、ブラシ、清掃綿
□ビニール袋
□お気に入りのおもちゃなどなじいがついたもの
□洗濯ネットなど
□ガムテープ必須性ヶーカー

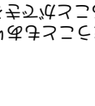
人用避難用品
□飲料水、食料　□衣類
□衛生用品・生理用品　□季節用品
□医薬品、救急用品　□個人的に必要なもの
□貴重品
□照明器具
□ラジオなどの情報収集ツール



ペットが迷子にならないために

災害時の混乱の中では、ペットはくれてしまうこともあります。ペットが迷子になっても、飼い主の元に戻ることができるよう対策をしましょう。

□首輪に連絡先を書いた名札をつけている
□マイクロチップを装着している
□鑑札・注射済票をつけている
□ペットと一緒に撮った写真がある
□「探しています」チラシやポスターを作成しておく



情報収集

※マイクロチップ法、直径2mm、長さ12mm程度の円筒形で、動物病院などで専用の注入器を使って皮下に埋め込みます。飼い主と離れ離れになったときに、専用のリーダーで個体識別番号を読み取ることで、飼い主の情報と照合することができます。

マイクロチップを装着したら、必ず環境省指定登録機関に飼い主と動物の情報を登録する必要があります。

避難が必要になったときに、安全に迅速に避難するために は、事前の情報収集が重要です。家族とも共有し、離れているときに合流できるようにしておきましょう。

□パナーキマッで住んでいる場所が危険な場所か把握する
□ペットを受け入れ可能な避難所を把握する
□避難経路を確認する
□ペットを預けることができる親戚、知人やペットホテルを探す。